

踏まね踏まれても生き返る

NO.27 2025.5.28

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

編集：発行 木村松夫
090-8646-9757
matsuokimura@gmail.com
com-matchan@hotmail.co.jp

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」登録
地域自主活動グループのWEBページでも閲覧できます。ほかのグループのレポートも見てください

除草したはずが植栽植物よりも大きい草が生えてきた

パイオニア植物
タケニグサ

それなりの景観がつくられている

森林や草原を伐採・草刈りして裸の状態にした後に、いちばん最初に生えてくる植物を先駆種とかパイオニア植物と言います。木本（樹木）ではアカメガシワが知られていますが、草本（野草）ではタケニグサがあげられます。左の写真は、北区西が丘のオリンピック選手強化施設トレーニングセンター前の有名な道路。たくさんの人々が訪れるので街路に植え込んだ樹木も大事に管理しているらしく、露地の草刈りは徹底的に行われています。その結果、パイオニア植物のタケニグサが大繁殖。主木であるサツキツツジを際立たせるための草刈りだったはずなのに、なんと皮肉なことにサツキツツジはタケニグサに覆い隠されてしまっています。人の背丈よりも大きく伸びた花茎には蕾が

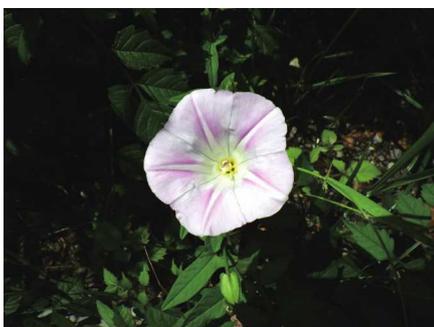


膨らんできてもうすぐ開花しそう。これはこれで良い景観を形成しているのだから面白いです。

タケニグサはケシ科の植物なので管理には注意を要するのですが、街路管理の目的を果たさない草刈りをするよりは、自然の成り行きに任せて、様々な植物が共存して美しく見えるような管理が考えられてしかるべきだと思います。

足元には初夏の花がいっぱい

午前中はあちこちでコヒルガオが咲いています。左から今開いたばかりの色が浅い花、十分に色づいたもの、そしてしぼみかけてきたもの。開花時間の違いで花の相が変わる様子を同時観察。



黄色の花は四季を通して場所を選ばずに楽しめる



↑マツヨイグサ アカバナ科。前ページのオリンピックトレセン通りで随所に咲いていました。「待宵草」と書くのですが、世の中では「宵待草（よいまちぐさ）」とも「月見草」呼ばれて、詩に歌われたり昔から人々に親しまれてきました。同じ仲間がたくさんあって、同定は結構厄介なのですが、あまり細かいこと言わないで花を楽しむことで良いのではないかと思います。

↓クスダマツメクサ マメ科シャジクソウ属。同じ仲間のシロツメクサよりは小型で、ものすごく小粒なコメツブツメクサよりは大きく、鮮やかな黄色が広がる原っぱは見ごたえがあります、



↑キンシバイ

ビヨウヤナギ→

オトギリソウ科。こちらは板橋区加賀の石神井川緑道。緑道設置時から植栽されている植物ですが同じ場所に混在して植えられています。葉の形も似ている同じ仲間なので、植栽時に植木屋さんが混同して植えたのではないかと木村は疑っています。でも、比較観察には絶好のポイントではあります。



この葉っぱなあに 続編 葉が大きくなってきたらハキダメギクとは違うような



左の葉は前号 (5/18 No26) でハキダメギクの展葉ではないかと言ったのですが、その後5/26の観察で花を咲かせたハキダメギクの葉(右)と比べると、ちよいと違います。

「なんだろう？」の宿題が継続中！

